

f音声 I

沖 浜

指定テキスト 『日本語音声学入門』三省堂

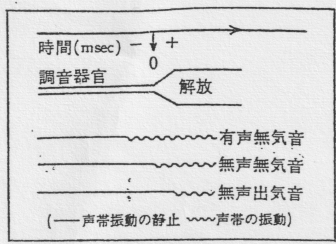
シラバス

- | | |
|---|-----------------|
| 1) 言語音とは何か | |
| 2) 音声学の3分野 | p.9 |
| 3) 調音器官と調音、IPA | p.20～ |
| 4) 音韻と音素 | 第11章 |
| 5) 母音の調音、日本語の各母音音素 | 第2章／p.72～、p.84～ |
| 6) 子音の調音、日本語の各子音音素 | 第2章／p.86～ |
| 7) 音節とモーラ（拍） | 第3章 |
| 8) 特殊音素 | 第2章／p.85、94～ |
| 9) 母音の無声化 | 第2章／p.95～ |
| 10) 超分節的特徴①.....超分節とは、アクセント
※日本語のアクセントのタイプについては、詳しくは音声IIで扱う。 | 第4章 |
| 11) 超分節的特徴②.....その他
※三省堂テキスト第10章（音声の物理的側面）とバベルプレス of テキストは音声IIで扱う。 | 第5～9章 |

***** 以下は本来なら板書で提示するものです *****

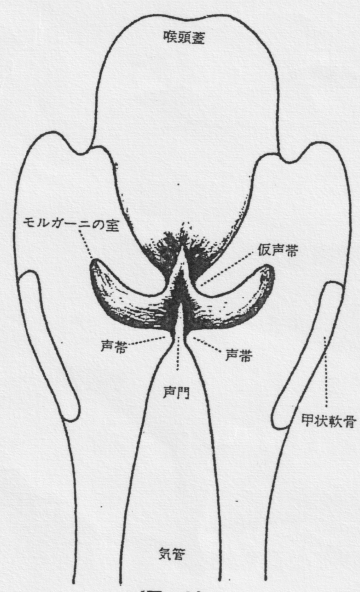
3) 調音器官と調音、IPA



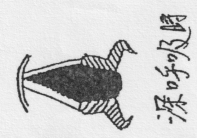
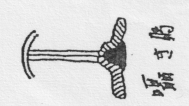
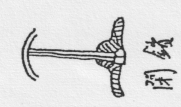
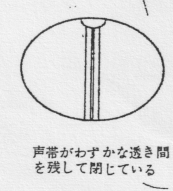
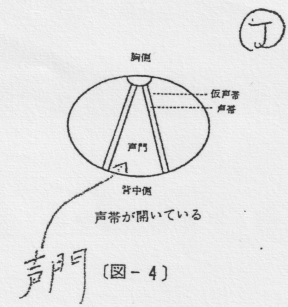


閉鎖子音の VOT

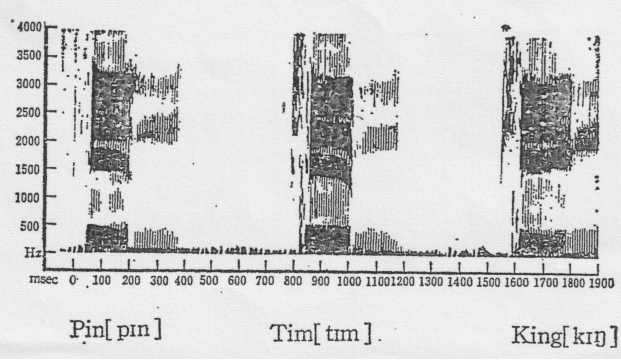
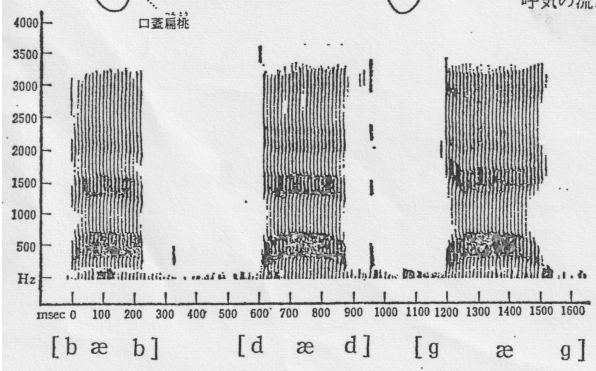
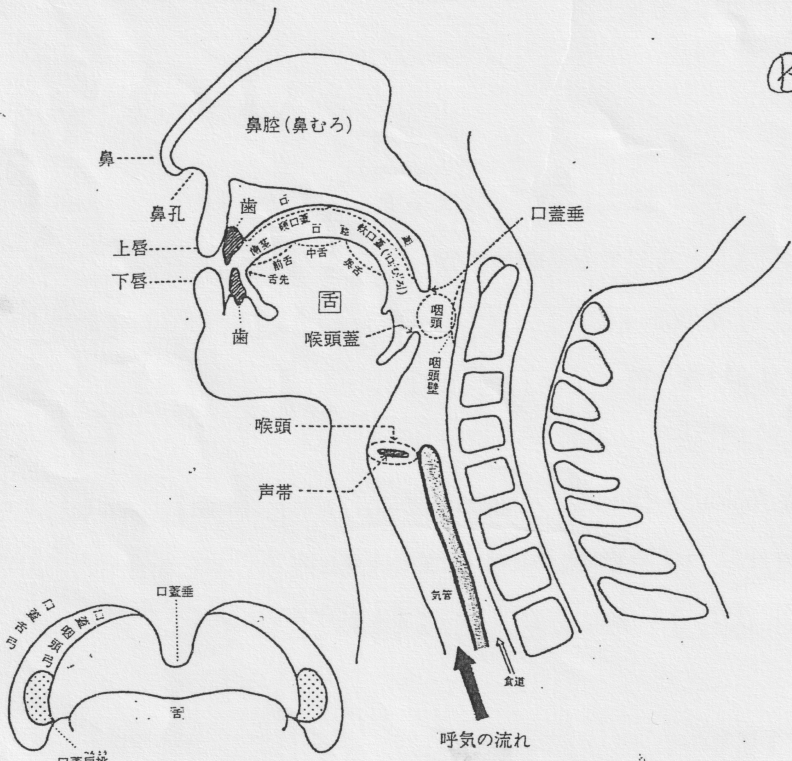
VOT = Voice Onset Time
声帯振動の開始時間



(図-3)



(声門の状態)



音声表記の方式の違いについて

音声I

① IPAの精密表記と簡略表記

	<精密表記>	<簡略表記>
日本語の「エ」	[<u>e</u>] [e] [<u>ɛ</u>] [ɛ] →	すべて [e]
日本語の子音	[p ^h] [p ^ʰ] [p] で区別 →	すべて [p]
日本語の「ツ」の子音	[ts̺] [ts̺] のようにつなぐ →	[ts]

② 音の捉え方・聴取のし方の違いによるもの

解釈による違いの例	[p̺] か [b] か / [p] か [b̺] か
聴き方による違いの例	[<u>e</u>] か [<u>ɛ</u>] か

③ その他の異表記の例

母音無声化	通常は [<u>V̥</u>] 稀に [<u>V̥̥</u>] 大文字で [A I U...] 稀に [<u>C̥</u>] として母音を表さない
硬口蓋化	[<u>C̺</u>] のほか [<u>C̺</u>] [<u>C̺</u>] [<u>C̺</u>] [<u>C̺</u>] [<u>C̺</u>] [<u>C̺</u>] イタリック体 (例: [<i>m</i>] = [m̺])
中舌化	[<u>V̺</u>] [<u>V̺</u>]
日本語の /N/	e.g. /aNta/ → [an̺nta] [an̺nta] 稀に [an̺'ta] [an̺ta] [an̺:ta] [an̺:nta] ※ <u>C̺</u> を重ねるのは語・文節の末尾以外
日本語の /Q/	[<u>C̺</u> (<u>C̺</u>)] 稀に [<u>C̺</u> <u>C̺</u>] [<u>C̺</u>] [<u>C̺</u>] など

日本語の標準発音の音価をどう見るか↓

サ行イ段	タ行イ段	サ(ダ)行イ段語頭	サ(ダ)行イ段語中	ア	オ	ワ	ナ行イ段
[ʃi] 後部 歯茎	[tʃi]	[dʒi]	[ʒi]	[a]	[o]	[wa]	[ɲi]
[ɕi] 歯茎硬口蓋	[tɕi] [tɕi]	[dʑi] [dʑi]	[ʑi]	[ɑ] 奥舌	[ɤ] 平唇 基本母音第2表	[ɰa]	[n̺i]

4) 音韻と音素

音声と音韻

	性格	最小単位	取り扱う分野	記述の仕方
音声	言語音の物理的・具体的・一回的側面、またはそのような捉え方	単音	音声学	[IPA]
音韻	言語音の社会的・抽象的側面、またはそのような捉え方	音素	音韻論 (音韻学、 音素論とも)	/音素配列/ ※IPAと同じ字形でも表すものは違う

音素 ある言語社会において、意味を伝達する上で他から区別される単音の集合。

異音 同一の音素に属する単音。音声的に何らかの類似性を持つ。
(同一音素に属する複数の単音は互いに異音の関係にある。)

環境 ある単音の近くにどのような単音や音節があるか、または存在しない(語頭もしくは語末にある)か、といった条件。

ミニマルペア 音声的に一箇所のみ異なることで別語になる(つまりその部分が音素として異なる)2語。

条件(位置)異音 環境により規則的に交替する異音。位置異音とも。

自由異音 環境によらず、個人的な癖や偶発的な理由で交替する異音。

4

順行……後ろの単音が、前の単音の影響を受けて変わることを。

逆行……順行の逆。

同化……共通の音声的特徴を持つ音に変わること。

異化……同化の逆。

※世界の多くの言語において、逆行同化が最も一般的、かつ規則正しく起きる。

(硬)口蓋化……後ろにイの母音もしくはヤ行の半母音〔j〕が立つという環境で現れる。

【弁別的／非弁別的 特徴】

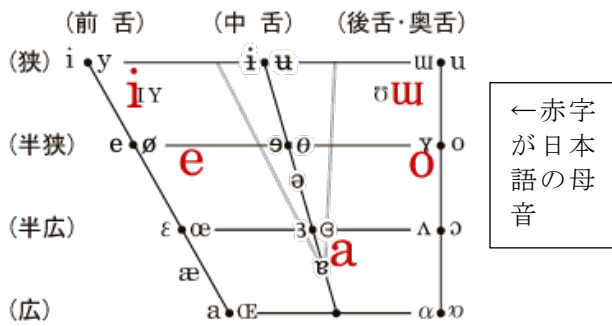
音韻の区別に利用する音声的特徴は、言語によって異なる。〈→p.69〉

	無声	有声
無 気	[p]	[b]
有 気	[p ^h]	[b ^h]

- ・中国語・韓国語は_____の上か下かで区別する。
＝氣息の有無が弁別的、声帯振動の有無が非弁別的
- ・日本語・英語・アラビア語などは_____の右か左かで区別する。
＝声帯振動の有無が弁別的、氣息の有無が非弁別的
- ・ヒンディ語・タイ語・カンボジア語などは_____でも_____でも区別する。本来のアイヌ語はどちらの線でも区別しない。

【有気音】氣息のある音。出気音、帯気音とも。

5) 母音の調音、日本語の各母音音素



発音記号が対になっている場合
左: 非円唇母音 / 右: 円唇母音
(口を丸めない) / (口を丸める)

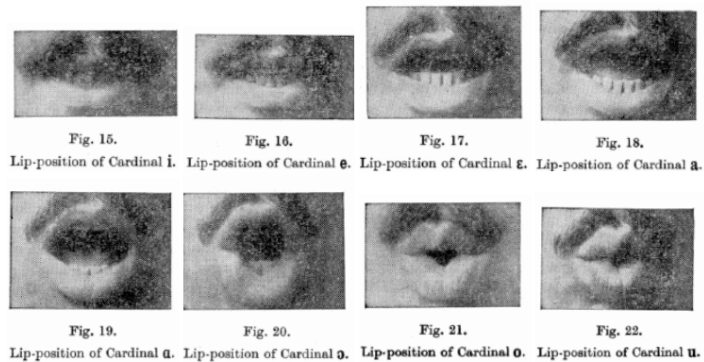


図3: 唇 (Lips) の写真: 8つの基本母音の唇の位置の写真 (唇はジョーンズ自身)。上の4枚 (前、非丸) が相対的に広がっている点と下の4枚 (後、丸) が相対的に丸くなっている点に注意。

広母音＝低母音 高母音＝狭母音 「い→え」は舌の下降＝口腔の拡大

【母音を記述するための3つの要素】 p. 75～76

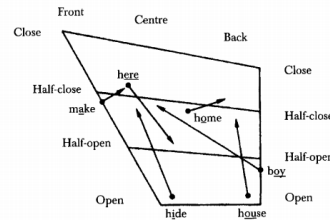
- ①唇の丸め (唇を突き出して口腔を長くするか)
- ②舌頂部 (舌が最も盛り上がる部分) も前後位置
- ③舌頂部の上下位置＝口の開き
+ IPA の基本母音の表の要素ではないが
- ④鼻音化の有無＝鼻腔の関与＝口蓋帆の位置 (下がれば鼻音)

【非円唇 (平唇) / 円唇】

※平唇母音とは唇が横長になる母音ではなく、唇に緊張のない母音のこと。 (右上写真参照)

【わたり】

母音を発声している途中で口の構えが変わること



6) 子音の調音、日本語の各子音音素

「調音点、調音者、調音法」の3点セットを共有する無声／有聲のペアが存在する場合と、しない場合がある。
濁音＝有聲音 ではない。(鼻音、ラ行音、接近音、母音などは全て有聲。)
便宜的に「閉鎖音＝破裂音」と考えてよい (厳密には違うという立場もある)。

【子音の伝統的な記述 (下記①～⑤をまとめたもの)】 p. 19～21

- ①調音点 (テキストでは「調音の場所」)
- ②調音者 (そり舌音や唇歯音/歯音などを除き、①が決まればほぼ自動的に決まる)
- ③調音法 (テキストでは「調音の方法」)

【(肺気流による) 子音を記述するための要素】 p. 25

- ①発声の種類 (有聲/無聲、息漏れ音か、きしみ音か etc.) ……日本語では有聲/無聲のみ弁別的
- ②調音の位置 (どこで空気の流れを妨害するか)
- ③気流の通路 (中線的/側面的→p. 23 摩擦音と接近音にのみ関係) ……日本語では非弁別的
- ④狭めの程度とタイプ
- ⑤口蓋帆の位置 (下がれば鼻音) = 鼻腔の関与 ……日本語では母音に関しては非弁別的

6

【日本語の拍の一覧表】

カタカナの拍は外来語音・オノマトペ等にも使われるもの。アミカケの拍はそれらのうち定着度が低いもの。

上記を除く通常の拍のみ//の中に音素表示を示す（外来音の拍は音素の意識が固まっていないため）。

一般的な音価を IPA で示す。特殊拍は除外した。

	あ/a/	い/i/	う/u/	え/e/	お/o/				
	[a]	[i]	[u]	[e]	[o]				
	か/ka/	き/ki/	く/ku/	け/ke/	こ/ko/	きゃ/kyā/	きゅ/kyū/		きょ/kyō/
	[ka]	[kʲi]	[ku]	[ke]	[ko]	[kʲa]	[kʲu]		[kʲo]
	クワ	クイ		クエ	クオ				
	[kwa]	[kwi]		[kwe]	[kwo]				
	が/ga/	ぎ/gi/	ぐ/gu/	げ/ge/	ご/go/	ぎゃ/gyā/	ぎゅ/gyū/		ぎょ/gyō/
語頭	[ga]	[gʲi]	[gu]	[ge]	[go]	[ga]	[gu]		[go]
語中	[ŋa]	[ŋʲi]	[ŋu]	[ŋe]	[ŋo]	[ŋʲa]	[ŋʲu]		[ŋʲo]
	さ/sa/	し/si/	す/su/	せ/se/	そ/so/	しゃ/syā/	しゅ/syū/	シェ/sye/	しよ/syō/
	[sa]	[ʃi]	[su]	[se]	[so]	[ʃa]	[ʃu]	[ʃe]	[ʃo]
	ざ/za/	じ/zi/	ず/zu/	ぜ/ze/	ぞ/zo/	じゃ/zyā/	じゅ/zyū/	ジェ/zye/	じょ/zyō/
語頭	[dza]	[dʒi]	[dzu]	[dze]	[dzo]	[dʒa]	[dʒu]	[dʒe]	[dʒo]
語中	[za]	[ʒi]	[zu]	[ze]	[zo]	[ʒa]	[ʒu]	[ʒe]	[ʒo]
	た/ta/	ち/ti/	つ/tu/	て/te/	と/to/	ちゃ/tyā/	ちゅ/tyū/	チェ/tye/	ちよ/tyō/
	[ta]	[tʃi]	[tsu]	[te]	[to]	[tʃa]	[tʃu]	[tʃe]	[tʃo]
		ティ							
		[ti]							
	ツア	ツイ		ツエ	ツオ				
	[tsa]	[tsi]		[tse]	[tso]				
	ダ/a/	ぢ=じ	づ=ず	で/e/	ど/o/	ぢゃ=じゃ	ぢゅ=じゅ		ぢょ=じょ
	[da]			[de]	[do]				
		ディ							
		[di]							
	な/na/	に/ni/	ぬ/nu/	ね/ne/	の/no/	にゃ/nyā/	にゅ/nyū/	ニエ	にょ/nyō/
	[na]	[ni]	[nu]	[ne]	[no]	[ɲa]	[ɲu]	[ɲe]	[ɲo]
	は/ha/	ひ/hi/	ふ/hu/	へ/he/	ほ/ho/	ひゃ/hyā/	ひゅ/hyū/	ヒエ	ひょ/hyō/
	[ha]	[çi]	[ɸu]	[he]	[ho]	[ɕa]	[ɕu]	[ɕe]	[ɕo]
	ファ	フィ		フェ	フォ				
	[ɸa]	[ɸi]		[ɸe]	[ɸo]				
	ば/ba/	び/bi/	ぶ/bu/	べ/be/	ぼ/bo/	びゃ/byā/	びゅ/byū/		びょ/byō/
	[ba]	[bi]	[bu]	[be]	[bo]	[bʲa]	[bʲu]		[bʲo]
	ぱ/pa/	ぴ/pi/	ぷ/pu/	ぺ/pe/	ぽ/po/	ぴゃ/pyā/	ぴゅ/pyū/		ぴょ/pyō/
	[pa]	[pi]	[pu]	[pe]	[po]	[pʲa]	[pʲu]		[pʲo]
	ま/ma/	み/mi/	む/mu/	め/me/	も/mo/	みゃ/myā/	みゅ/myū/		みょ/myō/
	[ma]	[mi]	[mu]	[me]	[mo]	[mʲa]	[mʲu]		[mʲo]
	や/ya/		ゆ/yu/	イエ	よ/yo/				
	[ja]		[ju]	[je]	[jo]				
	ら/ra/	り/ri/	る/ru/	れ/re/	ろ/ro/	りゃ/ryā/	りゅ/ryū/		りょ/ryō/
	[ra]	[ri]	[ru]	[re]	[ro]	[rʲa]	[rʲu]		[rʲo]
	わ/wa/	ウィ		ウェ	ウォ				
	[wa]	[wi]		[we]	[wo]				

7) 音節とモーラ（拍）

音節……発声、および聞こえ のまとまり。

モーラ（拍）……モーラ言語にだけ存在する抽象的で等時性を持つ単位。

※検定レベルでは、モーラ＝拍 と考えてよい。

重要！ 特殊音素は、必ず単独で一拍を構成するが、単独では音節を構成しない。

↓拍と音節の切れ目は/で、拍のみの切れ目は/で示す。

カ・ー/ポ・ー/ト カ・ー/ディ/ガ・ン グ/リ/コ チョ/コ/レ・ー/ト
 パ=イ/ナ・ツ/プ=ル ……=はくだけた発音では音節として切れないこともある。
 チョ・ツ/キ・ー・ン …… 5拍 2音節

8) 特殊音素

【特殊音素 1——引音/R/】

前の母音の調音時間が1モーラ持続するもの。

実態として、エ段とオ段では狭い側へのわたりを伴うことが多い。

【特殊音素 2——促音/Q/】

後続子音の調音時間が1モーラ持続するもの。

後ろの単音が、 摩擦音……………摩擦が1拍分長く続く。

破裂音または破擦音……………閉鎖が1拍分長く続く（待機音）。

8

【特殊音素 3——撥音/N/】 三省堂p. 95, バベルプレスp. 32

後続の単音と同じ口の構え（声道の形）の鼻音が1モーラ持続するもの。日本語の全ての音素のうち最も異音が多く、ほぼ規則的な逆行同化を示す。

撥音の異音は、条件異音に自由異音が平行している部分があり、非常に複雑で、資料によって示される異音が異なることも多い。

撥音の各異音の現れる環境をまとめると：

①後続音がない環境

〔N〕 口蓋垂鼻音 句末など後続音のない環境。丁寧な発音ではあらゆる環境で現れる可能性がある。

②後続音が破裂音・破擦音・弾き音（等の流音）・鼻音などの場合

後続子音と同じ調音点の鼻音になるのでわかりやすい。

〔m〕 両唇鼻音 両唇音（m, p, b）の前

〔n〕 歯茎鼻音 歯茎の破裂音・破擦音・鼻音（t, d, n, r, その他のラ行子音）の前

〔ɲ〕 硬口蓋鼻音 硬口蓋音（ɲ ニとナ行拗音, 硬口蓋化したタダ行）の前

※「ニ」を〔nʲi〕と記述する場合はそれに合わせる。〔例〕三人〔saɲɲiN〕→〔saɲnʲiN〕

〔ŋ〕 奥舌軟口蓋鼻音 軟口蓋音（k, g, ŋ）の前

※いわゆるガ行鼻濁音を持たない人も、撥音に後続するガ行はŋで発音すること多い。

③後続音が摩擦音の場合

①狭めの母音やこれらの中間の音の鼻音になる……〔i〕〔ʉ〕〔u〕〔ɤ〕 etc.

〔例〕先祖〔seʉzo〕

※各鼻母音が弁別的に使い分けられているわけではなく、中舌音を含むさまざまな鼻母音で現れる。

②後続の摩擦音の鼻音化した音になる……〔ʒ〕〔ʃ〕

〔例〕寛いだ自然な発話の場合 先祖〔seʒzo〕患者〔kanʒa〕

③丁寧な発音では、以下のどちらかになる可能性がある。

(1)口蓋垂鼻音で現れる。〔seNzo〕

(2)後続がザダ行の場合、後続子音が破擦音となり、その前の撥音がdと同じ調音点のn音になる。
〔sendzo〕……ゾは語中では通常は摩擦音だが、語頭と同じ破擦音dzで現れる。

④後続音が母音の場合

①ややくだけた発話では、後続の母音の鼻音化したもので現れる。ただし後続母音が広母音の場合は、それよりやや狭い鼻母音として現れることが多い。

〔例〕南ア〔naãa〕←下線部すべて口の構えが同じ。聴き取りにくい。

〔naãa〕←〔a〕より狭い〔ʌ〕の鼻音化したもの。この程度の狭めの鼻母音になることが多い。

②口蓋垂鼻音〔N〕（または〔ŋ〕に近い鼻音）で現れる。

注意！

①撥音の音価の記述は、IPAを重ねたり、IPAの下に〔_〕を、IPAの後ろに〔.〕〔:]〔˙〕〔ˑ〕を付けるなどして、調音時間が長くなることを示すほか、バベルプレスのテキストのように何もつけない記述法もある。

②上記では断っていないが、後続の各子音が硬口蓋化している場合には、その前の撥音も（調音点が同じになるので）硬口蓋化音で現れる。ただし口蓋化を示す補助符号が省略されることもある。

〔例〕あんみつ〔a m̥m̥itsw〕正確にはm̥は中舌化音なので上に˙がつく。

【特殊音素のミニマルペア】

ぶか ブーカ ぶっか ぶんか
[buka] [buːka] [buk̚ka] [bɯŋka]

「ぶんか」は「ぶか」には存在しない鼻音〔ŋ〕が現れる
「ブーカ、ぶか」……前者は母音〔u〕の調音時間が長い。
「ぶっか、ぶか」……前者は子音〔k〕の調音時間（閉鎖）が長い。

「かな、かな」……前者は鼻音〔n〕の調音時間が長い
かな カンナ
[kana] [kan̚na] または [kanna] または [kan̚a]

両唇	歯茎	後部歯茎 ～硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	鼻母音	現れる環境
m						①両唇音〔p〕〔b〕〔m〕の前
	n					①歯茎音〔t〕〔d〕〔ts〕〔dz〕〔n〕〔r〕の前
		ɲ				①歯茎硬口蓋音〔ɟ〕〔ɕ〕〔ɲ〕の前
			ŋ			①軟口蓋音〔k〕〔g〕〔ŋ〕の前
				N		①句末＝後続音なし ②丁寧な発音では母音・接近音(半母音)の前 ③非常に丁寧な発音ではあらゆる環境
					Ṽ	①母音・接近音(半母音)の前 ②摩擦音〔ɸ〕〔s〕〔ʃ〕〔ç〕〔h〕の前 （後続音に応じた口の構えの鼻母音になる）
	ʡ					②歯茎摩擦音〔z〕の前
		ʡ				②歯茎硬口蓋摩擦音〔ʒ〕の前

①は基本の異音、②はその他の異音。〔ʃ〕は〔ɕ〕、〔ʒ〕は〔ʒ〕に置き換えてもよい。

9) 母音の無声化

【ほぼ必ず無声化母音が現れる環境】

①無声子音に挟まれた狭母音（つまり/i/と/u/）

②無声子音に続く句末の（＝その後に続く音がない）狭母音
……以上は義務的に無声化する（しないと変）。

語頭の狭母音で後続音が無声子音の場合も無声化しやすいが、必ずではない。

ただしアクセント核とは共起しない＝無声化が妨げられる。（ゴシックはアクセント核、下線部は低い拍）

みちひき かたきとり かるきすい たきかわ

通常（早口で至近距離にいる人に喋る場合などを除き）、無声化の連続は避けられる。以下の2語は全母音が無声化し得るが、実際には第1、第3拍のみ無声化することが多い。

きつつき [kʲi tsw tsw kʲi]

菊池氏 きくちし [kʲi ku tʃi ʃi] （[kʲi ku tɕi ɕi]）

10) 超分節的特徴①.....超分節とは、アクセント

【超分節的特徴の3大要素】

- A.アクセント
- B.イントネーション
- C.プロミネンス

A. アクセント

一語中の相対的な高低または強弱。3要素のうちアクセントのみ、完全にデジタル（無段階では表現されない）で社会習慣として決まっている。

弁別アクセントを持つ言語においては、語の識別に関わるという点では、音素と同じ機能を持つ（かぶせ音素とも）。

語の単位（正確には、発話上の塊＝日本語では文節、ヨーロッパ語などでは前置詞＋冠詞＋名詞、などの塊。）で決まっており、音節単位で現れる。

アクセントを有する言語において、一語のうち最も際立つ部分は一箇所にまとまっている。日本語であれば高く発音される拍は一つの連続をなす。英語であれば最も強い音節は一語に一つである。

B. イントネーション

発話意図に応じて現れる高低の変化で、無段階で調節される。

話者は無段階で調節できるが、社会習慣として一定の決まりがある。文法的要素であるモダリティーと関係を持つ。

原則として、文法上の「節」の単位で現れる。

C. プロミネンス（卓立、フォーカス）

話者が強調したい情報を担う部分を、相対的に強く（やや高く）発声するもの。発話意図に応じて現れ、無段階で調節される。

特別な発話意図がない場合にごく弱いプロミネンスが置かれる位置は、社会習慣として概ね決まっている。日本語では文節または連文節の単位で現れる。

【標準語および東京方言のアクセントの特徴】

①高い部分は一箇所に固まっている。

＝単独の語にアクセントの山が二つ現れることはない。

※全国共通ルール。

「アクセントの山」を「最も際立つ箇所」とすれば、世界共通ルール。

②モーラ間の相対的な高低で示され、モーラの途中で高さが変わることはない。

※方言によっては、モーラの途中で高さが変わる語も存在する。

③文節の1拍目と2拍目の高さは必ず違う。

※この特徴を持たない方言もある。

④弁別アクセントである。

＝つまり $\text{ア}^{\text{メ}}$ と $\text{ア}^{\text{メ}}$ の違いが意味の違い（別語）を指し示すことができる。

※日本語には一型アクセント方言や無アクセント方言も存在する。

以上から、標準語のアクセントは、

アクセント核（下がり目、滝）がどの拍にあるか、または核が無いか

で記述できる。

したがって、 n 拍の語のアクセント型は理論的には $n+1$ 通り存在する。

＝4拍語であれば5通り。6拍語であれば7通り

ただし理論的に可能なパターンが全て現れ得るのは名詞のみ。

動詞などの活用語のアクセントは、何拍語であるかに関わらず、終止形のアクセントパターンがわかれば、各活用形（假定形、命令形 etc.）のアクセントがわかる。（語末から数えてのアクセント核の位置がわかる）ただしその動詞が何段活用か、また終止形が何拍であるかには関係がない。

【アクセントの 続き上がり／続き下がり】

前の文節に後続の文節が意味的に密接に結合する（緊密な連文節となる）場合、一つの文節のように発音されることが多い。後続の文節のアクセントパターンが消えるという現象である。

前の文節が上がって終わり、そのまま後ろの文節が高く続くことを「続き上がり」と呼ぶ。その逆に、前の文節が下がって終わり、そのまま後ろの文節が低く続くことを「続き下がり」と呼ぶ（※呼び名は一定しない）。

※ 平板アクセント（アクセントの下がり目なし）か尾高アクセント（最後の拍が下がり目）かを見分けるには、助詞をつければよい。ただし、連体助詞の「の」以外の格助詞をつけて調べること。〈名詞＋の＋名詞〉は緊密な結合になるので、後半部のアクセントが消えやすいためである。

※高い拍をゴシックで示す。

はながかおる

はな の かおり → （さらっと発音すると） → はなのかおり

木^が 気^が し^を（橋） し^を（端）

11) 超分節的特徴②……その他

【アクセントとプロミネンス】

プロミネンスが置かれる文節または連文節のアクセントは消えず、はっきりと示される。プロミネンスが置かれ11た文節に続く文節のアクセントは消えやすい。

【アクセントとイントネーション】

アクセントが下降、イントネーションが上昇である場合は、いったん下降し急激に上昇する。アクセントと矛盾するイントネーションも、日本語では通常消えない。

【ポーズ】

文の構造上の切れ目を示したり、強調したい語の前後に置いて際立たせたりするのに用いられる。

【超文節的特徴の組み合わせで伝達される】

以下は多義文（複数の解釈が成り立つ文。曖昧文とも。）であるが、ポーズとプロミネンスの置き方、アクセントの続き上がり／下がりの有無 などによって、文意を区別して伝えることができる。

練習問題

複数の解釈が成り立つ場合、それぞれを表現するために、ポーズとプロミネンスをどこに置くかを考えよ。

①き の う お お さ か で ぬ す み を は た ら い た お と こ が
た い ほ さ れ た

②し ゃ ち ょ う は さ い ぎ し ん が つ よ く し っ と ぶ か い
か い ち ょ う を お そ れ て い た

③き ょ う と が か く に ん し た し ぼ う し ゃ の か ず は
ご に ん で し た